推賞寸言

牧野信一

青空文庫

田舎の明るい竹林のほとりに住んでゐる、私の或る知人の簡素な茶室に、一幅の懸物がかゝつてゐた。たしか五つの漢文字であつたが、うろ覚えだから誌すのは遠慮しておくが、私がその意味を問ふたら、これは、斯うして小さな一つのひしやくを持つて、一杯の湯を酌む——が、この一つの小さなひしやくを持つて酌んだ一杯の湯は、即ち一杯の宇宙を酌んだものである——と云ふやうな意味のことを説明された。私は、感心し、愉快であつた。そして私は、すゝめられた茶に不思議に微妙な、そして広大な風味を覚えながら、懸物の文字を眺めたことがあつた。

その後私は、佳き作品に出遇ふと屹度あの時の光景を思ひ出すのである。

変な前置を誌してしまつたが。

私は、この間「経済往来」（十一月号）で「当世胸算用」（近松秋江作）を読んで非常に感心した。沁々と、大家の作である——と思つた。正に、あの竹林の茶室で味ふた一喫の茶の味であつた。

その筆致の、悠々として迫らざる、その態度の清澄を極めたる着実さ、その微妙な人心の生むいとも朗らかな自然の飄逸味に、私は惻々と、胸を打たれながら読了した。

題材を特に云々するわけではない。作品としての傑れたる味はひである。佳き作品は、その題材の如何を問はず、何んな読者にも和やかな妙味を覚えしむるものである——など今更のやうに考へた。

その他「新潮」所載、嘉村礒多作、「秋立つまで」に感嘆した。

余白がないから、「当世胸算用」に就いても、「秋立つまで」に関してもいろいろなことは述べきれぬが、逸作であるといふことの吹聴だけで沢山だらうと思はる。未読の方に、すゝめたい。

今月は、未だ以上の二雑誌で、この二作しか読んでゐないのであるが、共々に稀なる作品であつたといふことは、近来の快事であつた。

青空文庫情報

底本：「牧野信一全集第四巻」筑摩書房
　　2002（平成14）年6月20日初版第1刷発行
底本の親本：「文藝春秋　第八巻第十四号（十二月号）」文藝春秋社
　　1930（昭和5）年12月1日発行
初出：「文藝春秋　第八巻第十四号（十二月号）」文藝春秋社
　　1930（昭和5）年12月1日発行
入力：宮元淳一
校正：門田裕志
2011年8月1日作成
2016年5月9日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

推賞寸言

牧野信一

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/